



A コマンド

この章のコマンドは、Cisco MDS 9000 ファミリのマルチレイヤディレクタおよびファブリック スイッチに対応しています。ここでは、コマンドモードに関係なく、すべてのコマンドがアルファベット順に記載されています。各コマンドの適切なモードを確認するには、「コマンドモード」を参照してください。詳細については、『*Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide*』を参照してください。

aaa accounting logsize

ローカル アカウンティング ログ ファイルのサイズを設定するには、**aaa accounting logsize** コマンドを使用します。デフォルトのログサイズ 250000 バイトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

aaa accounting logsize *integer*

no aaa accounting logsize

シンタックスの説明	aaa accounting	説明
	logsize	ローカル アカウンティング ログ ファイル サイズを設定します (バイト)。
	<i>integer</i>	ローカル アカウンティング ログ ファイルのサイズ制限を、0 ~ 250000 バイトの間で設定します。

デフォルト 25,0000

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(2)	このコマンドが導入されました。
	2.0	このコマンドは使用されなくなりました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、ログ ファイル サイズを 29000 バイトに設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# aaa accounting logsize 29000
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show accounting logsize	設定されたログ サイズを表示します。
	show accounting log	ログ ファイル全体を表示します。

aaa accounting default

デフォルトのアカウントング方式を設定するには、**aaa accounting default** コマンドを使用します。デフォルトのローカル アカウントングに戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa accounting default {group group-name [none] | none} | local [none] | none}
```

```
no aaa accounting default {group group-name [none] | none} | local [none] | none}
```

シンタックスの説明	group group-name	グループ認証方式を指定します。グループ名は、最大 127 文字までです。
	local	ローカル認証方式を指定します。
	none	認証なし（全員許可）に設定します。

デフォルト ローカル アカウントング

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 工場出荷時の設定に戻すには、**no** を先頭に付与し、現在設定されているコマンドを指定します。

例 次に、TacServer というグループ メンバのリモート Terminal Access Controller Access Control System Plus (TACACS+) サーバを使用して、ローカル アカウントング方式でアカウントングの実行をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# aaa accounting default group TacServer
```

次に、アカウントングを切断する例を示します。

```
switch(config)# aaa accounting default none
```

次に、ローカル アカウントング（デフォルト）に戻す例を示します。

```
switch(config)# no aaa accounting default group TacServer
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show aaa accounting	設定されたアカウントング方式を表示します。

aaa authentication dhchap default

DHCHAP 認証方式を設定するには、コンフィギュレーション モードで **aaa authentication dhchap default** コマンドを使用します。出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa authentication dhchap default {group group-name [none] | none} | local [none] | none}}
```

```
no aaa authentication dhchap default {group group-name [none] | none} | local [none] | none}
```

シンタックスの説明	group group-name	グループ名認証方式を指定します。グループ名は、最大 127 文字までです。
	local	ローカル ユーザ名認証を指定します (デフォルト)。
	none	認証なしの指定をします。

デフォルト ローカル ユーザ名認証

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **local** オプションは、他の認証方式をディセーブルにして、ローカル認証を排他的に使用するよう設定します。

工場出荷時の設定に戻すには、**no** を先頭に付与し、現在設定されているコマンドを指定します。

例 次に、TacServers と呼ばれるグループ メンバのリモート Terminal Access Controller Access Control System Plus (TACACS+) サーバを使用して、ローカル認証方式ですべての DHCHAP 認証の実行をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# aaa authentication dhchap default group TacServer
```

次に、ローカル認証方式 (デフォルト) に戻す例を示します。

```
switch(config)# no aaa authentication dhcahp default group TacServer
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show aaa authentication	設定された認証方式を表示します。

aaa authentication iscsi default

iSCSI 認証方式を設定するには、コンフィギュレーション モードで **aaa authentication iscsi default** コマンドを使用します。コマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa authentication iscsi default {group group-name [none] | none} | local [none] | none}}
```

```
no aaa authentication iscsi default {group group-name [none] | none} | local [none] | none}}
```

シンタックスの説明

group <i>group-name</i>	グループ名を指定します。グループ名は、最大 127 文字までです。
local	ローカル ユーザ名認証を指定します (デフォルト)。
none	認証なしの指定をします。

デフォルト

ローカル ユーザ名認証

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

local オプションは、他の認証方式をディセーブルにして、ローカル認証を排他的に使用するよう設定します。

工場出荷時の設定に戻すには、**no** を先頭に付与し、現在設定されているコマンドを指定します。

例

次に、TacServers と呼ばれるグループ メンバのリモート Terminal Access Controller Access Control System Plus (TACACS+) サーバを使用して、ローカル認証方式ですべての iSCSI 認証の実行をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# aaa authentication iscsi default group TacServer
```

次に、ローカル認証方式 (デフォルト) に戻す例を示します。

```
switch(config)# no aaa authentication iscsi default group TacServer
```

関連コマンド

コマンド	説明
show aaa authentication	設定された認証方式を表示します。

aaa authentication login

ログイン認証方式を設定するには、コンフィギュレーション モードで **aaa authentication login** コマンドを使用します。ローカル認証に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa authentication login {default {group group-name [none] | none} | local [none] | none} |
  console {group-name [none] | none} | local [none] | none} | error-enable | mschap enable}
no aaa authentication login {default {group group-name [none] | none} | local [none] | none} |
  console {group-name [none] | none} | local [none] | none} | error-enable | mschap enable}
```

シンタックスの説明

default	デフォルト方式を設定します。
console	コンソール認証ログイン方式を設定します。
group group-name	グループ名を指定します。グループ名は、最大 127 文字までです。
local	ローカル認証方式を指定します。
none	認証を行わず、だれでも許可することを設定します。
error-enable	ログインエラーメッセージの表示をイネーブルにします。
mschap enable	MS-CHAP ログイン認証をイネーブルにします。

デフォルト

ローカル ユーザ名認証

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.3(1)	このコマンドが導入されました。
3.0(1)	mschap オプションが追加されました。

使用上のガイドライン

console オプションは、コンソール ログイン方式を上書きします。

工場出荷時の設定に戻すには、**no** を先頭に付与し、現在設定されているコマンドを指定します。

例

次に、TacServer と呼ばれるグループ メンバのリモート Terminal Access Controller Access Control System Plus (TACACS+) サーバを使用して、ローカル ログイン方式ですべてのログイン認証の実行をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# aaa authentication login default group TacServer
```

次に、コンソール認証方式をイネーブルにして、ローカル ログイン方式で TacServer というグループを使用する例を示します。

```
switch(config)# aaa authentication login console group TacServer
```

次に、パスワードの有効性をチェックしないように設定する例を示します。

```
switch(config)# aaa authentication login default none
```

次に、ローカル認証方式（デフォルト）に戻す例を示します。

```
switch(config)# no aaa authentication login default group TacServer
```

次に、MS-CHAP ログイン認証をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# aaa authentication login mschap enable
```

次に、デフォルトのログイン認証方式である PAP（パスワード認証プロトコル）に戻す例を示します。

```
switch(config)# no aaa authentication login mschap enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
show aaa authentication	設定された認証方式を表示します。

aaa authentication login password-aging enable

AAA サーバからのパスワードエージング通知を設定するには、コンフィギュレーションモードで **aaa authentication login password-aging enable** を使用します。出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

aaa authentication login password-aging enable

no aaa authentication login password-aging enable

シンタックスの説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

コンフィギュレーションモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
3.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

工場出荷時の設定に戻すには、**no** を先頭に付与し、現在設定されているコマンドを指定します。



(注)

このコマンドは TACACS+ プロトコルでサポートされます。この機能をイネーブルにすることによって RADIUS プロトコルの使用を試みると、RADIUS によって SYSLOG メッセージが生成され、認証がローカルにフォールバックします。

例

次に、AAA サーバからのパスワードエージング通知をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# aaa authentication login password-aging enable
```

The following example reverts to the Password Authentication Password (PAP) authentication method (default)

```
switch(config)# no aaa authentication login password-aging enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
show aaa authentication login password-aging	パスワードエージング通知のステータス(イネーブル/ディセーブル)を表示します。

aaa group server

1 つまたは複数の独立したサーバグループを設定するには、コンフィギュレーションモードで **aaa group server** コマンドを使用します。サーバグループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
aaa group server {radius | tacacs+} group-name
    server server-name
    no server server-name

no aaa group server {radius | tacacs+} group-name
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	radius	Remote Authentication Dial-In User Service (RADIUS) サーバグループを指定します。
	tacacs+	Terminal Access Controller Access Control System Plus (TACACS+) サーバグループを指定します。
	<i>group-name</i>	指定のサーバグループをユーザの定義名で識別します。名前は英数字で 64 文字までに制限されています。
	server server-name	サーバグループに追加するまたはそこから削除するサーバ名を指定します。

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン これらのサーバグループはいつでも設定できますが、**aaa authentication login** または **aaa accounting** コマンドを使用して Authentication, Authorization, Accounting (AAA; 認証、許可、アカウントिंग) サービスへ適用した場合にのみこれらが有効になります。

例 これらのサーバグループはいつでも設定できますが、**aaa authentication** または **aaa accounting** コマンドを使用して AAA サービスへ適用した場合にのみこれらが有効になります。

```
switch# config terminal
switch(config)# aaa group server tacacs+ TacacsServer1
switch(config-tacacs+)# server ServerA
switch(config-tacacs+)# exit
switch(config)# aaa group server radius RadiusServer19
switch(config-radius)# server ServerB
switch(config-radius)# no server ServerZ
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show aaa groups	設定されたすべての AAA サーバグループを表示します。
	show radius-server groups	設定された RADIUS サーバグループを表示します。
	show tacacs-server groups	設定された TACACS サーバグループを表示します。

abort

処理中の Call Home コンフィギュレーションセッションを破棄するには、Call Home コンフィギュレーションサブモードで **abort** コマンドを使用します。

abort

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード Call Home コンフィギュレーションサブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(1b)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、進行中の Call Home コンフィギュレーションセッションを破棄する例を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# abort
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callhome	Call Home 機能を設定します。
	callhome test	ダミーのテストメッセージを設定された 1 つまたは複数の宛先へ送信します。
	show callhome	設定された Call Home 情報を表示します。

active equals saved

ブロック、禁止、またはポートアドレス名を自動的に IPL ファイルに書き込むには、**active equals saved** コマンドを使用します。この設定をディセーブルにするか、またはデフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

active equals saved

no active equals saved

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード FICON コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **active equals saved** をイネーブルにすることで、実行コンフィギュレーションと同様 Fibre Connection (FICON) コンフィギュレーションを保存するときに、**copy running-config startup-config** コマンドを実行しなくてもよくなります。スイッチまたはファブリックが複数の FICON イネーブル VSAN (仮想 SAN) で構成され、これらの VSAN の 1 つの **active equals saved** がイネーブルである場合、非 FICON コンフィギュレーションを変更すると、すべての FICON イネーブル コンフィギュレーションが IPL ファイルに保存されます。



(注) 詳細については、『Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide』を参照してください。

例 次に、VSAN の自動保存機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# ficon vsan 2
switch(config-ficon)# active equals saved
```

次に、VSAN の自動保存機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config-ficon)# no active equals saved
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。
	ficon vsan	指定の VSAN (仮想 SAN) 上で FICON をイネーブルにします。
	show ficon	設定された FICON の詳細を表示します。

alert-group

ユーザが定義した **show** コマンドで Call Home アラート グループをカスタマイズするには、Call Home コンフィギュレーション サブモードで **alert-group** コマンドを使用します。カスタム設定を削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
alert-group event-type user-def-cmd command
```

```
no alert-group event-type user-def-cmd command
```

シンタックスの説明

<i>event-type</i>	次のアラート グループに基づいてイベント タイプを指定します。
Avanti	Avanti イベントを表示します。
Environmental	電源、ファン、温度関連のイベントを表示します。
Inventory	コンポーネント ステータス イベントを表示します。
License	ライセンス関連のイベントを表示します。
RMON	RMON (リモート モニタリング) 関連のイベントを表示します。
Supervisor-Hardware	スーパーバイザ関連のイベントを表示します。
Syslog-port-group	ポート マネージャが格納した Syslog メッセージ関連のイベントを表示します。
System	ソフトウェア関連のイベントを表示します。
test	ユーザが発生させたテスト イベントを表示します。
<i>user-def-cmd command</i>	alert-group に対応する CLI コマンドを設定します。最大文字サイズは 512 です。

デフォルト

なし

コマンド モード

Call Home コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

user-def-cmd 引数を使用すると、送信する **callhome** メッセージに出力を付加するコマンドを定義できます。指定できるのは **show** コマンドだけであり、アラート グループと関連付ける必要があります。1 つアラート グループに 5 つのコマンドを指定できます。無効なコマンドは拒否されます。



(注)

non-Cisco-TAC アラート グループ用の宛先ファイルに、事前に定義された **show** コマンドが指定されていて、Cisco-TAC アラート グループとは異なることを確認してください。

例

次に、アラート グループ ライセンスに **show license usage** というユーザ定義コマンドを設定する例を示します。

```
switch(config-callhome)# alert-group license user-def-cmd "show license usage"
```

次に、アラートグループライセンスの **show license usage** というユーザ定義コマンドを削除する例を示します。

```
switch(config-callhome)# no alert-group license user-def-cmd "show license usage"
```

関連コマンド

コマンド	説明
callhome	Call Home 機能を設定します。
callhome test	ダミーのテストメッセージを設定された1つまたは複数の宛先へ送信します。
show callhome	設定された Call Home 情報を表示します。

arp

スイッチの Address Resolution Protocol (ARP) をイネーブルにするには、**arp** コマンドを使用します。スイッチの ARP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
arp hostname
```

```
no arp hostname
```

シンタックスの説明

<i>hostname</i>	ホスト名を指定します。最大 20 文字まで可能です。
-----------------	----------------------------

デフォルト

イネーブル

コマンドモード

コンフィギュレーションモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

なし

例

次に、IP アドレス 10.1.1.1 のホストに設定された ARP をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no arp 10.1.1.1
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show arp	ARP テーブルを表示します。
clear arp	特定のエン트리またはすべてのエントリを ARP テーブルから削除します。

attach

特定のモジュールを接続するには、EXEC モードで **attach** コマンドを使用します。

```
attach module slot-number
```

シンタックスの説明	module slot-number モジュールのスロット番号を指定します。
-----------	---

デフォルト	なし
-------	----

コマンドモード	EXEC モード
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **attach module** コマンドを使用して、スタンバイ スーパーバイザ モジュールの情報を表示できます。ただし、スタンバイ スーパーバイザ モジュールをこのコマンドで設定することはできません。

また、Cisco MDS 9216 スーパーバイザ モジュール (2つのスロットのうちスロット 1 を使用) のスイッチング モジュール上で、**attach module** コマンドを使用することもできます。

接続を解除するには、**exit** コマンドを `module-number #` プロンプトで使用するか、または **s.** を入力して接続セッションを強制終了します。

例 次に、スロット 2 のモジュールに接続する例を示します。**attach module** コマンドを使用してこのモジュールのイメージを接続したあと、プロンプトがモジュール番号 # に変更されていることを確認してください。

```
switch# attach module 1
Attaching to module 1 ...
To exit type 'exit', to abort type '$.'
module-1# exit
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	exit	モジュールから接続解除します。
	show module	モジュールのステータスを表示します。

attachpriv

特定の ILC ラインカードを特権として接続するには、EXEC モードで **attach module** コマンドを使用します。

attachpriv module slot-number

シンタックスの説明	module slot-number モジュールのスロット番号を指定します。
------------------	---

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	EXEC モード
----------------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.1(3)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

例 次に、特定の ILC ラインカードを特権として接続する例を示します。

```
switch# attachpriv module 1
Attaching to module 1 ...
To exit type 'exit', to abort type '$.'
module-1# exit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	exit	モジュールから接続解除します。
	show module	モジュールのステータスを表示します。

attribute qos

QOS (Quality of Service) の属性を設定するには、Inter-VSAN Routing (IVR) ゾーン コンフィギュレーション サブモードで **attribute qos** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
attribute qos {high | low | medium}
```

```
no attribute qos {high | low | medium}
```

シンタックスの説明	high	low	medium
	フレームの照合ゾーンを設定してプライオリティを高くします。	フレームの照合ゾーンを設定してプライオリティを低くします (デフォルト)。	フレームの照合ゾーンを設定してプライオリティを中間にします。

デフォルト ディセーブル

コマンドモード IVR ゾーン コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、IVR ゾーン QOS 属性のプライオリティを低く設定する例を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# ivr zone name IvrZone
switch(config-ivr-zone)# attribute qos priority low
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ivr zone	IVR ゾーン設定を表示します。

authentication

Internet Key Exchange (IKE) プロトコル ポリシーの認証方式を設定するには、IKE ポリシー コンフィギュレーションサブモードで **authentication** コマンドを使用します。デフォルトの認証方式に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
authentication {pre-share | rsa-sig}
```

```
no authentication {pre-share | rsa-sig}
```

シンタックスの説明

pre-share	認証方式として事前共有キーを設定します。
rsa-sig	認証方式として RSA シグニチャを設定します。

デフォルト

事前共有キー

コマンドモード

IKE ポリシー コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**crypto ike enable** コマンドを使用して IKE プロトコルをイネーブルにします。さらに、FQDN（完全修飾ドメイン名）を使用してアイデンティティ認証モードを設定してからでなければ、RSA シグニチャで認証を行うことはできません。アイデンティティ認証モードを設定するには、**identity hostname** コマンドを使用します。

例

次に、事前共有キーを使用する認証方式の設定例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# crypto ike domain ipsec
switch(config-ike-ipsec)# policy 1
switch(config-ike-ipsec-policy)# authentication pre-share
```

次に、RSA シグニチャを使用する認証方式の設定例を示します。

```
switch(config-ike-ipsec-policy)# authentication rsa-sig
```

次に、デフォルトの認証方式（事前共有キー）に戻す例を示します。

```
switch(config-ike-ipsec-policy)# no authentication rsa-sig
```

関連コマンド


コマンド	説明
crypto ike domain ipsec	IKE コンフィギュレーションモードを開始します。
crypto ike enable	IKE プロトコルをイネーブルにします。
identity hostname	IKE プロトコルに対応するアイデンティティを設定します。
show crypto ike domain ipsec	IPSec ドメインの IKE 情報を表示します。

autonomous-fabric-id (IVR topology database configuration)

Inter-VSAN Routing (IVR) トポロジ データベースに、Autonomous Fabric ID (AFID) を設定するには、**autonomous-fabric-id** コマンドを使用します。ファブリック ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
autonomous-fabric-id fabric-id switch-wwn swwn vsan-ranges vsan-id
```

```
no autonomous-fabric-id fabric-id switch-wwn swwn vsan-ranges vsan-id
```

シンタックスの説明	
fabric-id	Inter-VSAN Routing (IVR) トポロジのファブリック ID を指定します。
	 (注) リリース 2.1(1a) より前の Cisco MDS SAN-OS イメージでは、 <i>fabric-id</i> 値が 1 に限定されています。リリース 2.1(1a) 以降のイメージでは、 <i>fabric-id</i> の範囲が 1 ~ 64 に増えました。
switch-wwn swwn	スイッチの World Wide Name (WWN) をドットで区切られた 16 進数のフォーマットで設定します。
vsan-ranges vsan-id	データベースに追加する VSAN の範囲を最大 5 つ設定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

デフォルト なし

コマンド モード IVR トポロジ データベース コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.3(1)	このコマンドが導入されました。
	2.1(1a)	<i>fabric-id</i> の範囲を変更しました。

使用上のガイドライン AFID を VSAN (仮想 SAN) に設定する際のルールは次のとおりです。

- VSAN のデフォルト AFID は 1。
- 各 VSAN が属する AFID は 1 つのみ。
- スイッチは複数の AFID のメンバになることが可能。
- スイッチの AFID は、VSAN の ID と競合してはならない (例: スイッチの VSAN が属する AFID は 1 つのみ)。
- AFID がスイッチを共有してないかぎり、VSAN を結合せずに VSAN の ID を異なる AFID で再利用できる。

IVR トポロジでは、最大 64 の VSAN を利用できます (Cisco MDS SAN-OS Release 2.1(1a) 以降であれば 128 の VSAN を利用可能)。次の情報を利用して、IVR トポロジを指定します。

- IVR に対応したスイッチの World Wide Name (WWN)。
- IVR 対応のスイッチが属する最低 2 つの VSAN。

- 2つの VSAN に同じ VSAN 番号が割り当てられていても、論理的、物理的に分かれば判断できる Autonomous Fabric ID (AFID)。Cisco MDS SAN-OS Release 1.3(1) 以降では、デフォルトの AFID (AFID 1) のみサポートされています。そのため、ネットワーク内の一意でない VSAN ID はサポートされません。現行の Cisco MDS SAN-OS Release 2.1(1a) では、最大 64 の AFID を指定できます。



(注)

異なるファブリック ID を持ち、かつ VSAN 番号が同じ 2 つの VSAN は、ファブリック内で利用できる全 128 の VSAN のうちの 2 つとカウントされます。

次のコマンドは、コンフィギュレーション モードを開始します。次に、IVR 機能のイネーブル化、VSAN トポロジデータベースの開始、および pWWN の設定を実行します。VSAN は VSAN 2 および 2000 と関連します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# ivr enable
switch(config)# ivr vsan-topology database
switch(config-ivr-topology-db)# autonomous-fabric-id 1 switch 20:00:00:00:30:00:3c:5e
vsan-ranges 2,2000
```

関連コマンド

コマンド	説明
ivr enable	IVR 機能をイネーブルにします。
ivr vsan-topology database	VSAN トポロジデータベースを設定します。
show autonomous-fabric-id database	AFID データベースの内容を表示します。
show ivr	IVR 機能情報を表示します。

autonomous-fabric-id (IVR service group configuration)

Inter-VSAN Routing (IVR) サービス グループに、Autonomous Fabric ID (AFID) を設定するには、IVR サービス グループ コンフィギュレーション サブモードで **autonomous-fabric-id** コマンドを使用します。AFID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

autonomous-fabric-id *afid* *vsan-ranges* *vsan-id*

no autonomous-fabric-id *afid* *vsan-ranges* *vsan-id*

シンタックスの説明	
<i>afid</i>	ローカル VSAN に AFID を指定します。
vsan-ranges <i>vsan-id</i>	サービス グループに追加する VSAN の範囲を最大 5 つ設定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

デフォルト なし

コマンド モード IVR サービス グループ コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン IVR サービス グループを設定する前に、次の内容をイネーブルにしてください。

- IVR (**ivr enable** コマンドを使用)
- IVR 配信 (**ivr distribute** コマンドを使用)
- IVR トポロジ自動検出 (**ivr vsan-topology auto** コマンドを使用)

IVR サービス グループ コンフィギュレーション サブモードを変更するには、**ivr service-group activate** コマンドを使用します。

例 次の例では、IVR サービス グループ コンフィギュレーション サブモードを開始して、AFID 10 を IVR サービス グループの `serviceGroup1` に設定します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# ivr enable
switch(config)# ivr distribute
switch(config)# ivr vsan-topology auto
switch(config)# ivr service-group name serviceGroup1
switch(config-ivr-sg)# autonomous-fabric-id 10 vsan 1-4
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>ivr enable</code>	IVR 機能をイネーブルにします。
	<code>ivr service-group name</code>	IVR サービス グループを設定して、IVR サービス グループ コンフィギュレーション サブモードに変更します。
	<code>show autonomous-fabric-id database</code>	AFID データベースの内容を表示します。
	<code>show ivr</code>	IVR 機能情報を表示します。

autonomous-fabric-id database

Autonomous Fabric ID (AFID) データベースを設定するには、**autonomous-fabric-id database** コマンドを使用します。ファブリック AFID データベースを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

autonomous-fabric-id database

no autonomous-fabric-id database

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **autonomous-fabric-id database** コマンドを使用してデータベースを変更する前に、**ivr vsan-topology auto** コマンドを使用して、IVR VSAN トポロジを自動モードに設定する必要があります。**autonomous-fabric-id database** コマンドも、同様に AFID データベース コンフィギュレーション サブモードを開始できます。



(注) ユーザ設定の VSAN トポロジ モードでは、AFID は IVR VSAN トポロジ設定により指定されるため、異なる AFID の設定をする必要はありません。

例 次に、AFID データベースを作成して、AFID データベース コンフィギュレーション サブモードを開始する例を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# autonomous-fabric-id database
switch(config-afid-db)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ivr vsan-topology auto	Inter-VSAN Routing (IVR) の VSAN (仮想 SAN) トポロジを自動コンフィギュレーションモードに設定します。
	switch-wwn	AFID データベースでスイッチの World Wide Name (WWN) を設定します。
	show autonomous-fabric-id database	AFID データベースの内容を表示します。
	show ivr	IVR 機能情報を表示します。

auto-volgrp

自動でのボリューム グルーピングを設定するには、**auto-volgrp** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

auto-volgrp

no auto-volgrp

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード Cisco SME クラスタ コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.2(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン Cisco SME が、テープのバーコードが既存のボリューム グループに属さないことを認識すると、自動によるボリューム グルーピングがイネーブルな場合、新しいボリューム グループを作成します。

例 次に、ボリューム グルーピングを自動でイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# sme cluster c1
switch(config-sme-cl)# auto-volgrp
switch(config-sme-cl)#
```

次に、ボリューム グルーピングを自動でディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# sme cluster c1
switch(config-sme-cl)# auto-volgrp
switch(config-sme-cl)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show sme cluster	Cisco SME クラスタ情報を表示します。